

ERSによる2010年8月16日のFeed Outlook

アメリカ穀物協会日本事務所による仮訳

(正確性については必ず英語原文レポートをご参照下さい)

飼料の見通し

記録的なトウモロコシ生産予測量

今月の2010/11年度予測は、米国トウモロコシおよびソルガム生産量に関する初めての調査に基づく予測により作成されました。2010年のトウモロコシ生産量は新記録になると予測されています。ソルガムの生産量は前年をわずかに上回ると予測されています。食品、種子および工業用途(FSI)の消費量は輸出とともに、生産量の拡大に呼応して増加すると見込まれています。2010/11年度の飼料用穀物4種の期末在庫量は、前月予測および2009/10年度を下回ると予測されています。国内在庫量の減少および世界的な穀物供給量の低下を受けて、価格の強含みが予測されています。今月の予測では、2010/11年度の世界の粗粒穀物生産量が引き下げられましたが、これは主としてヨーロッパ各地、特にロシアの悪天候に起因するものです。今月の予測では、世界のトウモロコシ取引量の増加および競争低下の恩恵を受け、米国の2010/11年度のトウモロコシ輸出量は1億ブッシェル引き上げられ、20億5000万ブッシェルになる見通しです。

国内の見通し

飼料穀物供給予測量は増加

2010年の米国飼料穀物生産量は前月予測から390万メートルトン、2009年から550万メートルトン増加して、3億5450万トンとなると予測されています。トウモロコシおよびソルガム生産量は前年より増加しますが、大麦およびオーツ麦は減少します。2010/11年度の飼料穀物の供給量は3億9720万トンと予測され、これは前月の予測からは260万トンの増加、2009/10年度からは110万トンの減少です。期首在庫予測量は前月から130万トンの減少、前年からは640万トンの減少となります。

2010/11年度の飼料穀物総消費量は3億600万トンと予測され、前月予測から390万トンの増加、前年度からは230万トンの増加となります。この前年対比増は輸出予測量の増加および国内消費量の増加分が引き下げられたことを反映したものです。2010/11年度の飼料

および残余用途の消費量は合計で 1 億 4190 万トンになると予測され、前月からは 30 万トンの増加しているものの、前年度からは 500 万トンの減少となっています。食品、種子および工業用途 (FSI)の消費量は 1 億 6190 万トンで、トウモロコシ甘味料およびデンプン用途での消費量増加を反映して、前月の予測から 70 万トン引き上げられています。FSI は主にエタノール用途での消費量増加を反映して、前年度から 570 万トンの増加が予測されています。輸出予測量は 5610 万トンで、前月からは 270 万トン、前年度からは 150 万トンの増加となっています。

アメリカ合衆国国勢調査局は 2009 年の修正数値を発表しましたが、これは主として取引の一部を次月に繰り延べたことによるものです。月別の数値にわずかな変化はあるものの 2008/09 年度の輸入量に変化はありませんが、2009/10 年度では 100,000 メートルトン引き上げられています。2008/09 市場年度の飼料穀物輸出量は 5120 万トンから 5090 万トンに引き下げられています。2009/10 年度の輸出は主としてトウモロコシ輸出増加の影響を受けて、5400 万トンから 5460 万トンに増加しています。2009/10 年度の期末在庫量は 4190 万トンから 4060 万トンに減少しています。

9 月－8 月の市場年度に換算すると、2010/11 年度の飼料穀物 4 種プラス小麦のうち飼料および残余用途の消費量は合計で 1 億 4800 トンになると予測されています。これは前月からは 40 万トンの増加ですが、2009/10 年度予測値である 1 億 4970 万トンからは 1 パーセントの減少になります。2010/11 年度の飼料および残余用途消費量全体のうちでトウモロコシの占める割合は 92 パーセントと予測され、2009/10 年度の 94 パーセントから減少しています。

2010/11 年度の穀物消費家畜単位の予測指数 (GCAU) は 2009/10 年度予測の 9160 万単位をわずかに上回る見込みです。GCAU 当たりの穀物消費量は 1.61 トンと予測され、2009/10 年度の 1.64 トンを下回ります。指標構成要素のうち、あらゆる種類の家禽、豚および乳牛の GCAU は増加し、その他のカテゴリーでは GCAU はわずかに減少しますが、その中で最も減少するのは肥育牛です。GCAU 単位が増加したのは牛肉、豚肉およびブロイラーに対するある程度の輸出需要があるためで、また、これには最近の日本および韓国向け輸出の増加も寄与しています。多くの市場で需要が上昇しており、今月の出荷雛鶏の羽数、食用卵の生産量およびブロイラーの輸出需要の増加を反映して、ブロイラーの分野で輸出が増加すると見込まれています。妥当な穀物価格になるにしたがって、ブロイラーの週間産卵数および出荷雛の羽数が増加しています。結果として、ブロイラー肉の生産量は 2010 年、2011 年ともに前年比で 3 パーセント増と予測されています。2010 年の鶏卵の生産量は 2009 年から 1 パーセント増加し、2011 年にはさらに 1 パーセントの増加が見込まれています。2010 年の七面鳥肉の生産量は 2009 年から 2 パーセントの減少が予測されています。七面

鳥の生産量は2011年にはやや回復し、2010年の2パーセント増が予測されています。2010年の豚肉の生産量は2009年から3パーセント減少すると予測されていますが、2011年には回復し、前年比2パーセント増となる見込みです。生産者は過去数ヶ月間に乳牛の数を増やしており、また乳牛1頭当たりの搾乳量の伸び率が増加しているため、牛乳の生産量は増加すると予想されます。2010年7月1日現在、1,000頭以上の収容能力を有する飼養所の畜牛は前年より3パーセント増加して1007万頭となっていますが、2010年の牛肉生産量は2009年より1パーセント減少すると予測されています。7月の「Cattle」報告書によれば、肥育場以外の畜牛の数が1パーセント減少し、仔牛の数が1パーセント減少するため、2011年の牛肉生産量は2010年を2パーセント下回ると予測されています。

トウモロコシ収穫予測量は記録的な増加

米国のトウモロコシ生産量は前年から2億5500万ブッシェル増加して133億7000万ブッシェルになると予測され、これが現実になると、これまでで最大の収穫量を記録することになります。穀物としての予測収穫面積は8100万エーカーで、前月からの増減はないものの、前年を140万エーカー上回ります。8月1日の状況に基づくと、1エーカー当たりの収量は平均165ブッシェルになると予測され、前月予測の163.5ブッシェルからは1.5ブッシェルの増加となります。2009年の単収実績は164.7ブッシェルでした。この単位当たり収量が現実になると、過去最高の記録となります。

8月1日のトウモロコシの目標収量データは、目標収量10州（イリノイ、インディアナ、アイオワ、カンザス、ミネソタ、ミズーリ、ネブラスカ、オハイオ、サウスダコタおよびウィスコンシン）全体として、1エーカー当たりの穂数がこれまでで一番多かった2009年に次ぐ過去二番目になることを示唆しています。イリノイ州、ミネソタ州、ミズーリ州およびウィスコンシン州では過去最高になる見込みです。8月8日現在、18のトウモロコシ主要生産州において良から優の作柄となったトウモロコシは71パーセントで、前年から3パーセントポイント増加しています。

今月の予測では、輸出およびFSIが増加する結果、2010/11年度のトウモロコシ全消費量は1億3000万ブッシェル増加して134億9000万ブッシェルとなっています。FSI消費量は3000万ブッシェル増加して60億9000万ブッシェルになります。メキシコ輸出の増加が見込まれるため、ハイフラクトースコーンシロップ（HFCS）は2000万ブッシェル増加して5億2500万ブッシェルになると予測されます。グルコースとデキストロース、またデンプンは双方ともに500万ブッシェル増加して、2010/11年度はそれぞれ2億6000万ブッシェルと2億5000万ブッシェルになります。エタノール用途のトウモロコシは今月も変化はなく47億ブッシェルのままです。今月の海外の飼料用小麦生産量予測が減少するため、

2010/11 年度の米国輸出は 1 億ブッシェル引き上げられて 20 億 5000 万ブッシェルとなる見込みです。消費量の増加が予想されるだけでなく、今月予測で期末在庫量が 6100 万ブッシェル減少して 13 億 1200 万ブッシェルとなるため、生産量の増加分では十分に相殺することができません。

現在までの出荷量を反映させた今月予測では、2009/10 市場年度の輸入量は 200 万ブッシェル減少して 800 万ブッシェルになり、輸出量は 2500 万ブッシェル増加して 19 億 7500 万ブッシェルになります。HFCS、およびグルコースとデキストロース用途でのトウモロコシ消費量はいずれも先月の予測から、それぞれ 5 億 1500 万ブッシェルと 2 億 5500 万ブッシェルに引き上げられています。HFCS が引き上げられたのは、6 月の輸出が好調であったこと、およびメキシコの 2009/10 年度の砂糖生産量が減少したことによるものです。デンプン用途の消費量も 500 万ブッシェル増加して 2 億 4500 万ブッシェルに引き上げられています。2009/10 年度の期末在庫量は 5200 万ブッシェル引き下げられて、14 億 2600 万ブッシェルとなっています。

アメリカ合衆国国勢調査局の取引修正には 2009 年（暦年）の取引変更が含まれています。2008/09 市場年度の輸出量は 900 万ブッシェル引き下げられ、18 億 4900 万ブッシェルとなっています。エネルギー情報局がエタノール月間生産量を修正したため、FSI 用途の消費量は 3200 万ブッシェル増加して 50 億 2500 万ブッシェルになっています。これらの修正によって、2008/09 年度の飼料および残余用途の消費量は 2300 万ブッシェル減少して 51 億 8200 万ブッシェルとなっています。

2010/11 年度のトウモロコシの生産者価格は前月から 1 ブッシェル当たり上値、下値ともに 5 セント上昇して 3.50 ドルから 4.10 ドルになると予測されています。市場年度平均は期末在庫の減少および世界的な飼料穀物供給量の減少による価格上昇を反映したものです。2009/10 年度のトウモロコシ価格は 1 ブッシェル当たり 3.50 から 3.60 ドルで変化はありません。

ソルガム生産予測量は増加

ソルガムの生産量は 3 億 8300 万ブッシェルと予測され、前月からは 3300 万ブッシェルの増加ですが、前年からはほとんど変化はありません。穀物としての予測収穫面積は 520 万エーカーで、前月からの増減はないものの、2009 年からはわずかに減少しています。8 月 1 日の状況に基づくと、1 エーカー当たりの収量は過去最高の 74.1 ブッシェルになると予測され、前月の予測からは 6.5 ブッシェルの増加で、前年からは 4.7 ブッシェルの増加となります。最も生産量の多い州であるカンザス州では、単位収量は前年から 6.0 ブッシェル減

少すると予測される一方、2番目にソルガム生産量の多いテキサス州の予測収量は1エーカー当たり70.0ブッシェルで、前年の48ブッシェルから大幅増となっています。8月8日現在、作柄が良から優とされたソルガムは66パーセントで、前年は49パーセントでした。

2010/11年度のソルガムの予測総消費量は3億7000万ブッシェルで、前月から2500万ブッシェル増加しています。飼料および残余用途の消費量は供給増を反映して、1500万ブッシェル引き上げられ1億2000万ブッシェルとなっています。輸出量はメキシコへの輸出の拡大が見込まれるため、1000万ブッシェル引き上げられ1億5000万ブッシェルとなっています。期末在庫量は800万ブッシェル増加して4100万ブッシェルです。

アメリカ合衆国国勢調査局は2009年(暦年)の取引の修正値を発表しました。これにより、2008/09年度の輸出量は若干引き下げられ、2009/10市場年度のソルガムの輸入量は若干引き上げられる結果となりました。

世界的な飼料穀物供給量の減少があらゆる飼料穀物の価格を押し上げるため、2010/11年度のソルガムの生産者価格は前月の予測より1ブッシェル当たり上値、下値ともに5セント上昇して平均3.20から3.80ドルになると予測されています。2009/10年度のソルガム価格は1ブッシェル当たり3.10から3.20ドルで変化はありません。

大麦生産予測量は増加

2010年の大麦の生産量は1億8400万ブッシェルと予測され、前月からは200万ブッシェルの増加ですが、2009年と比較すると4300万ブッシェルの減少となります。8月1日の状況に基づくと、生産者が見込む1エーカー当たりの収量は平均72.3ブッシェルで、前月の予測からは0.7ブッシェルの増加です。前年との比較では1エーカー当たりの収量の減少は1パーセント未満ですが、生産量の減少は過去最低の作付面積および1883年以来最低の収穫面積の反映分を上回ると予測されています。穀物としての予測収穫面積は250万エーカーで、前月からの増減はないものの、2009年との比較では18パーセントの減少となっています。8月8日現在、良から優とされた大麦の作柄は83パーセントで、前年は78パーセントでした。

生産量の増加により、今月の予測では2010/11年度の大麦の総供給量は200万ブッシェル増加して3億1400万ブッシェルとなっています。国内の総消費量は2億1500万ブッシェルで、前月予測からの変化はありません。輸出量も前月予測からの増減はありません。生産量が増加して消費量に変化がないため、期末在庫は200万ブッシェル増加して8900万ブッシェルになると予測され、これは2009/10年度と比較すると1億1500万ブッシェルの減

少となります。

アメリカ合衆国国勢調査局による 2009 年（暦年）の修正により、2008/09 年度の大麦輸出量がわずかに変化しました。2009/10 市場年度の輸入量は飼料および残余用途の消費量が減少したことを受けて、わずかに引き下げられました。2009/10 年度の輸出量はわずかに引き上げられました。

2010/11 年度の大麦の生産者価格は 1 ブッシェル当たり上値、下値ともに 5 セント上昇して平均 3.55 から 4.15 ドルになると予測されています。2009/10 年度の大麦価格は 1 ブッシェル当たり 4.66 ドルです。

オーツ麦の生産予測量は過去最低

2010 年のオーツ麦の生産量は 8700 万ブッシェルと予測され、前月からはわずかに減少し、2009 年との比較では 600 万ブッシェルの減少となっています。これが現実になると、過去最低の生産量となります。予測収穫面積は 130 万エーカーで、前月からの変化はなく過去最低となります。生産者は、8 月 1 日の状況に基づき、1 エーカー当たりの収量が平均 66.3 ブッシェルになると予測しており、7 月の予測からは 0.4 ブッシェルの減少で、前年からは 1.2 ブッシェルの減少となります。8 月 8 日現在、主要生産 9 州で良から優の作柄とされたオーツ麦は 77 パーセントで、前年は 56 パーセントでした。

今月の予測では 2010/11 年度のオーツ麦の総供給量は変化がなく、2 億 5800 万ブッシェルとなっています。オーツ麦消費量の今月予測も依然変化はなく、総消費量は 1 億 9400 万ブッシェルとなっています。

アメリカ合衆国国勢調査局による 2009 年（暦年）の修正により、2008/09 および 2009/10 市場年度のオーツ麦の輸出量および輸入量がわずかに変化する結果となっています。これを受けて、飼料および残余用途の消費量も変化しています。

2010/11 年度の生産者価格は 1 ブッシェル当たり上値、下値ともに 5 セント上昇して平均 2.15 から 2.75 ドルになると予測されています。2009/10 年度は 1 ブッシェル当たり 2.02 ドルです。

2010/11 年度の干し草生産予測量は増加

2010 年の干し草の総生産量は 1 億 5390 万トンと予測され、単位収量の増加により 2009

年からは 645 万トンの増加です。すべての干し草の 1 エーカー当たりの収量は 2.58 トンと予測され、2009 年の 1 エーカー当たり 2.47 トンから増加しています。予測収穫面積は 5970 万エーカーで、前年 5980 万エーカーからわずかに減少しています。

アルファルファ干し草の生産量は 7250 万トンと予測され、前年より 2 パーセントの増加となります。1 エーカー当たりの平均収量は 3.49 トンと予測され、前年比較で 0.14 トンの増加です。これが現実になると、1999 年の 1 エーカー当たり 3.51 トンに次ぐ過去 2 番目に多い単位収量となります。予測収穫面積は 2070 万エーカーで、6 月予測からの増減はありませんが、前年からは 495,000 エーカーの減少となります。

その他の干し草の生産量は 8140 万トンと予測され、前年より 503 万トンの増加となります。8 月 1 日の状況に基づくと、1 エーカー当たりの収量は平均 2.09 トンになると予測され、前年からは 0.11 トンの増加となります。これが現実になると、2004 年の 1 エーカー当たり 2.06 トンを上回る過去最大の単位収量となります。収穫面積は 3890 万エーカーで 6 月予測から変化はなく、前年からは 396,000 エーカーの増加となります。

2010/11 年度の粗飼料消費動物単位(RCAU)は 2009/10 年度を下回ると予測されています。干し草の生産量は増加し RCAU は減少するため、RCAU 当たりの干し草供給量は 2009/10 年度の 2.41 トンから増加して 2.51 トンとなります。

2010/11 市場年度(5 月から 6 月)第 1 四半期の干し草全体の平均生産者価格は 1 トン当たり 114 ドルで、2009/10 年度同期は 123 ドルでした。アルファルファ干し草の 2010/11 市場年度第 1 四半期の価格は 1 トン当たり 119 ドルで、2009/10 年度同期は 128.33 ドルでした。アルファルファ以外の干し草およびアルファルファ混合干し草の 2010/11 市場年度第 1 四半期の生産者平均価格は 1 トン当たり 98.7 ドルで、2009/10 年度の 107.67 ドルを下回りました。供給量が豊富で前年よりも投入原価が低下しているため、生産者は 2010/11 年度の干し草価格は 2009/10 年度の価格を下回ると予期しなければなりません。

国際的な見通し

今月予測では 2010/11 年度の世界の粗粒穀物生産量は減少

海外生産量が米国の増産では相殺しきれないほど低下するため、今月の予測では 2010/11 年度の世界の粗粒穀物生産量は下方修正されました。世界の粗粒穀物の面積は依然として

拡大が見込まれるものの、平均単位収量は 2009/10 年度の記録を下回る可能性が高いとされています。20010/11 年度の世界の粗粒穀物生産量は 2009/10 年度を多少上回ることが予測されますが、2008/09 年度をわずかに下回ります。

海外の粗粒穀物生産量は 1360 万トン減少して 7 億 5320 万トンと予測されます。旧ソ連諸国を覆う高気圧による異常気象のため、カザフスタン全域およびロシアの多くの地域で春と夏に深刻な干ばつが発生し、EU 東部諸国は過剰な降雨に見舞われ、英国全体およびフランスとドイツの北部が乾燥気味となっています。海外の大麦生産量は 760 万トン減少して 1 億 2390 万トンになり、海外トウモロコシは 380 万トン減少して 4 億 9210 万トンに、ライ麦は 130 万トン減少して 1360 万トンに、オーツ麦は 70 万トン減少して 2260 万トンとなっています。

収穫レポートが認めるように、ボルガ地方および中央地域全体の春の大麦収穫が干ばつにより壊滅的被害を受けたため、ロシアの大麦生産量は 300 万トン減少して 1000 万トンとなっています。ロシアの他の地域と比較してシベリア地方の大麦生産への被害は少なかったものの、前年同様の高収量を期待することはできません。ロシアの 2010/11 年度の大麦収穫量は過去 2 年の平均の 50%を下回ることが予測されます。ロシア南部地域が干ばつに見舞われたのはボルガ地方よりも遅かったものの、8 月初旬の異常な高温によりトウモロコシの登熟が阻害され、生産量は 150 万トン減少して 350 万トンになると予測されています。ロシアのライ麦は 80 万トン減少して 250 万トンに、オーツ麦は 50 万トン減少して 450 万トンとなっています。今月の予測では、雑穀類の生産量も 20 パーセント減少しています。

ウクライナの西部では大麥の登熟期および収穫期に過剰な降雨に見舞われたため、病害の発生が加速されて品質が低下し、生産量が 150 万トン減少して 900 万トンとなります。ウクライナの中北部および東部では干ばつがロシアから広がり、土壌の水分が不足し、登熟期の異常な高温がトウモロコシを枯らせています。投入剤、特に肥料使用量の減少が報告されており、これも単位収量を減少させています。今月の予測ではトウモロコシ生産量は 150 万トン引き下げられ、1150 万トンとなっています。オーツ麦およびライ麦の予測生産量も前月の予測を下回っています。カザフスタンの大麥生産量は干ばつのため 50 万トン減少して 130 万トンとなり、一方ベラルーシの生産量は収穫期の過剰降雨により 10 万トン減少して 190 万トンとなっています。アルメニアの大麥生産量は、収穫面積および単位収量が増加したため、幾分増加すると報告されています。

複数の EU 諸国で単位収量の低下が報告されているため、今月予測の EU の大麥生産量は 150 万トン引き下げられて 5480 万トンとなっています。最も大幅に減少したのはスペイン、フランスおよびドイツです。今月予測の EU のトウモロコシ生産量はフランスおよびドイツ

での減少を考慮して 100 万トン引き下げられ 5600 万トンとなっています。EU のライ麦(40 万)、オーツ麦(10 万) および混合穀物(10 万) の今月予測が減少しているのは、主としてドイツの収量予測が減少しているためです。EU 非加盟国では、クロアチアの粗粒穀物の予測生産量はわずかに上昇する一方で、大麦作付面積および生産量が減少し、トウモロコシの大麦生産量増加分では十分に相殺することができません。

アルジェリアでは単位収量が過去最大であった前年から大幅に減少すると報告されており、大麦生産量は 60 万トン引き下げられて 140 万トンとなっています。インドでは大麦単位収量の低下が報告されており、生産量は 30 万トン引き下げられて 130 万トンとなっています。メキシコでは十分な降雨量が寄与し、2010/11 年度のソルガム生産量は 10 万トン引き上げられ、710 万トンになると予測されていますが、前年の収穫量は下方修正されています。

米国トウモロコシでの減少により、2010/11 年度の世界の粗粒穀物の期首在庫量が引き下げられました。海外の期首在庫量は 40 万トン増加して 1 億 4720 万トンとなり、主として 2009/10 年度の取引に対する変更など複数の変更要素によって概ね相殺されています。2009/10 年度の国内消費予測量が減少したため、南アフリカのトウモロコシの期首在庫量は 100 万トン引き上げられ、アルゼンチンの期首在庫量は輸出の増加により 100 万トン減少しています。インドネシア、オーストラリア、メキシコおよびウクライナの粗粒穀物の期首在庫の減少分ではブラジル、トルコ、イラン、ベトナム、インド、カナダおよびベネズエラの増加分を十分補うことはできませんでした。

世界の粗粒穀物消費予測量は減少

今月の予測では、2010/11 年度の世界の粗粒穀物の消費量は 240 万トン減少して 11 億 2370 万トンとなっています。海外諸国の減少予測分では米国の増加分を十分に相殺することができません。供給が逼迫し、品質の低い小麦の価格が上昇しているため、EU(190 万トン増)、韓国(50 万トン増) およびイスラエル(40 万トン増) を含む複数の国々で飼料用途のトウモロコシ消費量の増加が見込まれています。継続的な輸入が強い需要を物語っているように、中国のトウモロコシ消費量は前月予測から 100 万トン引き上げられています。今月の予測では、インド、リビア、トルコおよびアルメニアの数値も幾分引き上げられています。

ロシアの干ばつおよび穀物輸出の禁止の影響で、世界の大半で粗粒穀物価格よりも小麦価格が上昇しています。ロシアでは輸出禁止により国内市場で利用可能な小麦が増加し、飼料穀物生産量の低下分が相殺され、小麦の飼料用途の消費量が増加すると予測されています。ロシアの飼料穀物消費量は前月から 450 万トン減少し、飼料および残余用途の消費量

は 370 万トン減少します。生産問題のためウクライナで 50 万トン、カザフスタンで 40 万トン、ベラルーシで 20 万トン減少すると、粗粒穀物消費量は今月予測では引き下げられています。トウモロコシ供給量が減少するため、インドネシアの消費が制約を受け、40 万トン減少すると予測されています。南アフリカのトウモロコシ消費量は前年の減少を考慮して 60 万トン下方修正されています。今月は、シリア、ヨルダン、オーストラリアおよびクロアチアの粗粒穀物消費量についても若干下方修正されています。

2010/11 年度の飼料および残余用途での世界の粗粒穀物消費量は前月予測よりも 130 万トン減少していますが、世界の消失量は 240 万トン引き下げられています。この理由のひとつとして、特にロシアでの食品、種子および工業用途の消費量減少をあげることができます。ただし、消失量の減少分の大半は現地の市場年度取引の変更に起因するものです。今月の予測では、2010/11 年度の世界の粗粒穀物輸入量は 220 万トン増加し、同輸出量は 120 万トン増加しています。これにより 2010/11 年度の世界の消失量が減少することになりました。このことはまた、南半球の現地では 2009/10 市場年度に増加した輸出量が、2010/11 取引年度（10 月から 9 月）中に出現することとも一致します。

世界の粗粒穀物予測在庫の減少

今月の予測では、2010/11 年度の世界の粗粒穀物の期末在庫は 810 万トン減少して 1 億 7200 万トンとなっています。この減少分の大半を占めるのは大麦で、トウモロコシの世界在庫の減少はわずか 190 万トンで 1 億 3920 万トンとなっています。トウモロコシの世界期末在庫は前月との比較では減少に転じていますが、期首在庫と比較するとほぼ変化がなく、2010/11 年度のトウモロコシの生産量と需要のバランスは例年に無く良好となることが期待されます。

米国トウモロコシ予測輸出量は増加

今月の予測では、2010/11 年度の世界のトウモロコシ取引量は 170 万トン増加して 9140 万トンとなっています。入手可能な大麦および低価格小麦の量が減少しているため、トウモロコシ需要の上昇が予測されます。加えて、中国では輸入トウモロコシに比べ国内のトウモロコシ価格が高止まりしているため、2010/11 年度はトウモロコシ輸入が続くと予測されています。中国のトウモロコシ輸入量は前月予測を 90 万トン上回り、100 万トンとなっています。FSU（旧ソ連諸国）の生産に関する問題およびロシアの輸出禁止に伴う低品質小麦の価格上昇を反映して、今月の予測では EU および韓国のトウモロコシ輸入量はそれぞれ 50 万トン、イスラエルは 40 万トン引き上げられています。EU の小麦輸出量は増加すると予測されていますが、小麦の生産量は低下しており、飼料として消費される量は減少する

と見込まれるため、トウモロコシの輸入需要を押し上げるとみられています。ロシアのトウモロコシ輸入量は前月予測から 20 万トン引き上げられて 30 万トンとなっています。

今月の予測では、ウクライナのトウモロコシ輸出は生産量低下のため 100 万トン減少して 500 万トンとなっています。地域内の需要が大きいため、EU のトウモロコシ輸出量は低下すると予測され、20 万トン引き下げられて 100 万トンとなっています。ブラジルのトウモロコシ輸出量は世界の取引量が増加するため、前月予測を 50 万トン上回って 850 万トンとなっています。しかしながら、米国は世界のトウモロコシ取引量の増加と競争の低下の恩恵を受けると予測され、2010/11 年度の輸出量は前月予測から 250 万トン増加して 5200 万トン（現地市場年度では 20 億 5000 万ブッシェル）になると見込まれています。最近の出荷ペースおよび大量の出荷待ちがあることを反映して、2009/10 年度の米国のトウモロコシ輸出量は前月予測から 100 万トン引き上げられています。アルゼンチンの 2009/10 取引年度のトウモロコシ輸出量も堅調な出荷ペースを反映して前月予測を 100 万トン引き上げています。

世界的な生産量の低下、ロシアの輸出禁止および価格上昇を受けて、2010/11 年度の世界の大麦予測取引量は 60 万トン減少し、1590 万トンとなっています。ウクライナの輸出は 120 万トン減少して 400 万トンに、ロシアの輸出は 60 万トン減少して 40 万トンになり、カザフスタン及びインドでもこれらを下回る減少が予測されています。大量の在庫を抱える EU の輸出は堅調で、前月予測を 100 万トン上回る 460 万トンとなっています。オーストラリアの大麦輸出は今月予測で 40 万トン増加して 400 万トンになると予測されています。

今月の予測では、2010/11 年度の米国のソルガム輸出量は 20 万トン引き上げられ、380 万トンとなっています。米国の生産量が増加する見通しであることやメキシコから強い需要があることから、取引量の増加が予測されます。

連絡先およびリンク

データ

飼料穀物データベース (<http://www.ers.usda.gov/data/feedgrains/>) は検索可能なデータベースで、月別、四半期別および年別のトウモロコシおよびその他の飼料穀物の価格、供給量、消費量を掲載しています。月次報告書「飼料のアウトルック」および年次報告書「飼料イヤーズブック」で発表されるデータも含まれています。

米国農務省（USDA）は、そのプログラムおよび活動すべてにおいて、人種、皮膚の色、国籍、年齢、身体障害、および該当する場合には性別、婚姻状況、家族状況、保護者状況、宗教、性的指向、遺伝子情報、政治的信条、報復を根拠にした差別、または個人の収入のすべてまたは一部が生活保護プログラムにより提供されていることを理由とした差別を禁じています。（禁じられているすべての根拠が全プログラムに適用されるわけではありません。）プログラムの情報のための代替通信手段（点字、大きな活字、録音テープなど）を必要とする身体障害者の方は、USDA のターゲットセンター（電話：(202) 720-2600）（音声およびろうあ者用通信機器（TDD））までご連絡ください。

差別について申し立てを行う場合には、USDA の公民権局のディレクター宛（住所：1400 Independence Avenue, S.W., Washington, D.C. 20250-9410）に書状を送付するか、(800) 795-3272（音声）または (202) 720-6382（TDD）に電話でご連絡ください。USDA は機会均等提供者および雇用者です。